

放射線防護食品エビデンスレポート

No059

1. 文献名

Horiot JC, Lipinski F, Schraub S, Maulard-Durdux C, Bensadoun RJ, Ardiet JM, Bolla M, Coscas Y, Baillet F, Coche-Dequ ant B, Urbajtel M, Montbarbon X, Bourdin S, Wibault M, Alfonsi M, Calais G, Desprez P, Pene F, Lapeyre M, Vinke J, Maral J. Post-radiation severe xerostomia relieved by pilocarpine: a prospective French cooperative study. *Radiother Oncol.* 2000; 55(3): 233-9.

2. 目的

口腔内乾燥症に対するピロカルピン塩酸塩(Salagen)の作用の評価とdose/volume放射線治療パラメーターとの反応との相関性評価を目的とする。

3. データソース

PubMed

4. 研究の選択

1995年6月から1996年2月まで、156人の放射線治療誘発口内乾燥症患者にピロカルピン塩酸塩を経口投与した。15mg/日の量を9週間後までに1日量が25mgになるまで5週間につき任意に5mg増加させた。

対象	ヒト
投与方法	経口投与
投与のタイミング	照射後
投与物質	pilocarpine

5. データ抽出

放射線照射グループの12週から24週までの口腔内乾燥症の改善具合の聞き取り調査。

6. 主な結果

患者145人のうち75%が本処理に順応性があり、38人の患者(26%)が急性不耐性(発汗、むかつき、吐き気)または反応が認められなかったため12週目以前に処理を中止した。重大な合併症は発生しなかった。97人(67%)については12週目で口内乾燥症の著しい改善があったことが報告された。12週以内では患者の77%より生活の質が重要あるいはとても重要であるとの回答を得た。

7. 結論

dose/volume放射線治療パラメーターによる違いは認められなかった。ピロカルピンは唾液腺を刺激し、放射線治療dose/volumeパラメーターに関わらずに重度の口内乾燥症に対して有益であることが示唆された。

簡易な要約(plain language summary)

ピロカルピンによる放射線照射後の深刻な口内乾燥症軽減

1995年6月から1996年2月まで、156人の放射線治療誘発口内乾燥症患者にピロカルピン塩酸塩を経口投与した。15mg/日の量を9週間後までに1日量が25mgになるまで5週間につき任意に5mg増加させた。145人の患者すべてを評価した。75%の患者が本処理に順応性があり、38人の患者(26%)が急性不耐性(発汗、むかつき、吐き気)または反応が認められなかったため12週目以前に処理を中止した。重大な合併症は発生しなかった。97人(67%)については12週目で口内乾燥症の著しい改善があったことが報告された。12週以内では、患者の77%により生活の質が重要あるいはとても重要であるとの回答を得た。ピロカルピン投与によるdose/volume放射線治療パラメーターによる違いは見られなかった。ピロカルピンは唾液腺を刺激し、放射線治療dose/volumeパラメーターに関わらずに重度の口内乾燥症に対して有益であることが示唆された。

8. 安全性評価か有効性評価か

有効性評価が述べられている。

9. 論文中有害事象・副作用の記載

副作用は報告されていない。

10. カテゴリーの規格基準に関連する事項や図表

記載なし

11. キーワード

Xerostomia, Salivary glands, Salivary flow measurement, Pilocarpine

12. 関連する食品認証と用途

認証食品ではない

13. 備考

ピロカルピン:ブラジル原産のミカン科の植物ヤボランジ(*Pilocarpus jaborandi*)に含まれている